

修士論文

The Title
of
Your Master Thesis

20xx 年 xx 月 xx 日 提出

指導教員 Your Professor 教授

東京大学 情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻

Your ID Your Name

概要

目次

第 1 章	How To Use \LaTeX	1
1.1	Figure	1
1.1.1	基本的な画像挿入方法	1
1.1.2	複数画像の挿入	3
1.2	Table	4
1.3	Bib	4
1.4	Equation	4
第 2 章	序論	5
2.1	研究背景	5
2.2	本研究の目的と方法	5
2.3	本論文の構成	5
第 3 章	背景	7
第 4 章	提案手法	9
第 5 章	実験結果	11
第 6 章	結論と展望	13
6.1	結論	13
6.2	課題と展望	13
謝辞		15
参考文献		17
付録 A	実験の補足	19

付録 B その他の実験

21

图目录

1.1	sample image (png)	1
1.2	sample image (pdf)	2
1.3	sample image (pdf, here)	2
1.4	Four sample images	3
1.5	Four sample images	3

表目次

1.1	Sample Table: accuracy for train/evaluation data.	4
-----	---	---

第 1 章

How To Use L^AT_EX

1.1 Figure

1.1.1 基本的な画像挿入方法

写真は `img` 下に配置します.

`label` で指定することで, Fig.1.1.1 は xxx のように参照することができる.

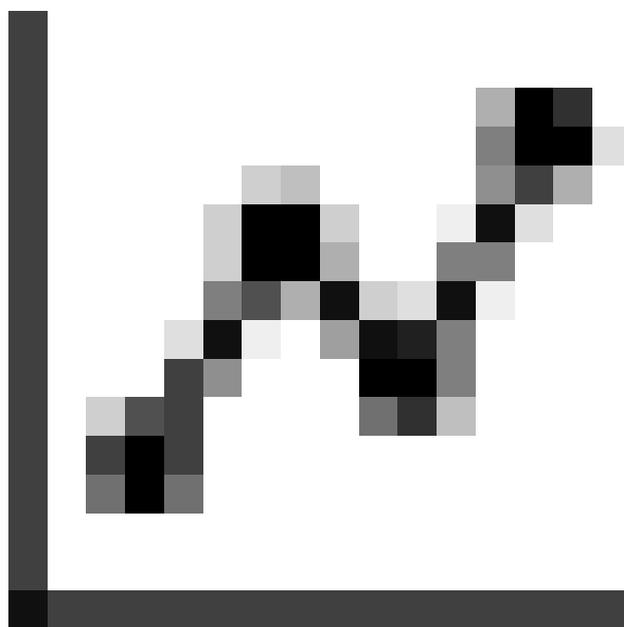


Fig.1.1 sample image: when its extension is png.

`caption` では `[]` が目次に示される内容で, `{}` が本文に示される内容である. 同じでいい場合は `{}` のみで良い.

上記のように, `png` や `jpeg` のようなラスタ画像を用いると, 拡大したときに荒くなってしまう.

下記のように pdf のようなベクタ画像を用いると拡大しても荒くならない。ただし、保存時にベクタ形式にする必要がある。出力の位置は [htbp] で指定するが、レイアウトによっては自動的

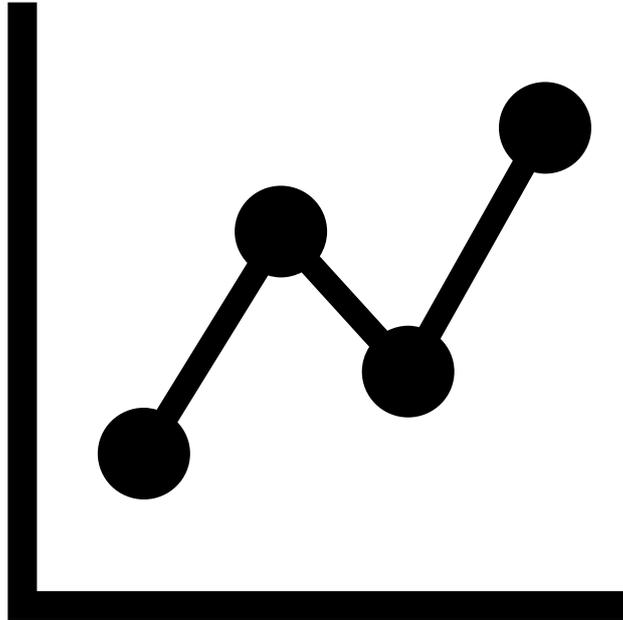


Fig.1.2 sample image: when its extension is pdf.

に次のページに移動するなど、指定した通りに配置できないときがある。この場合は [H] のように大文字で指定すると、

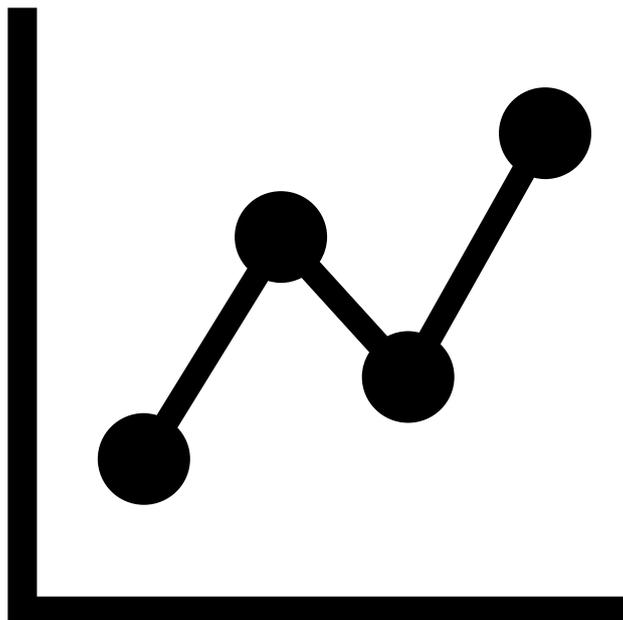


Fig.1.3 sample image: when its extension is pdf and is enforced to be here.

このように強制的に配置が可能になる.

1.1.2 複数画像の挿入

複数画像の挿入方法はいくつかあるようだが, とりあえず下記で挿入することが可能.

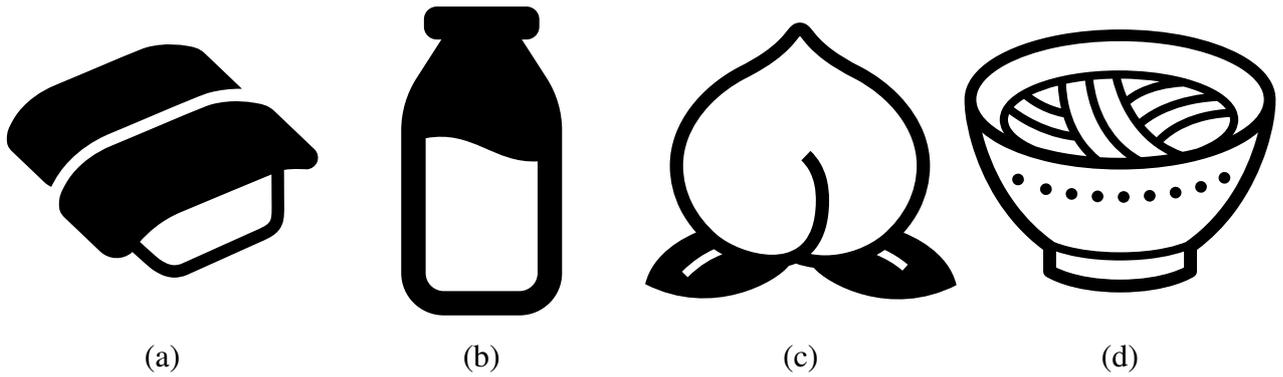


Fig.1.4 Four sample images. (a) sushi (b) milk (c) peach (d) ramen

縦2横2にすることも可能.

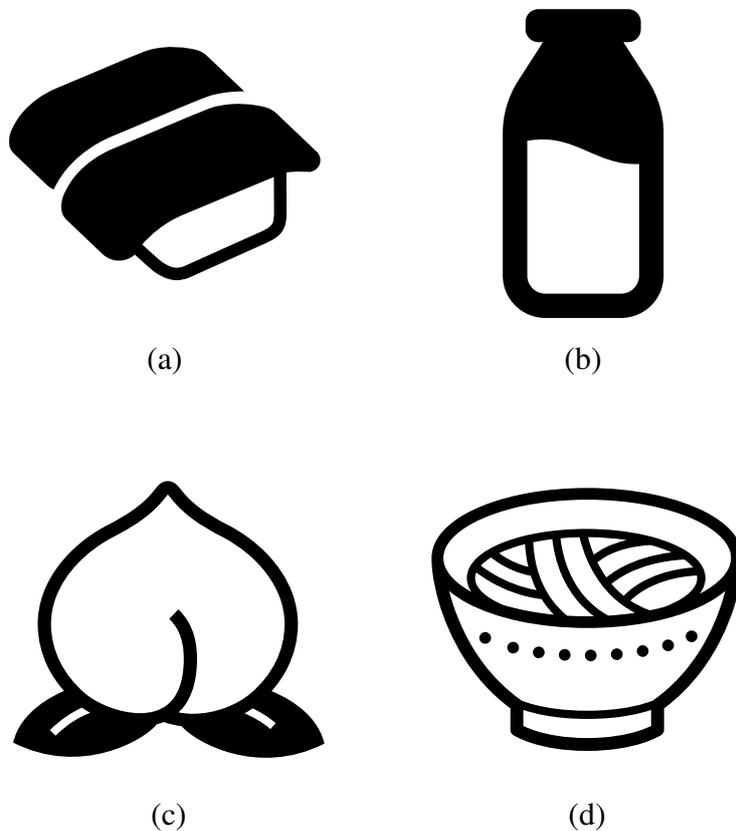


Fig.1.5 Four sample images 2. (a) sushi (b) milk (c) peach (d) ramen

1.2 Table

Table は Table1.1 のようにして挿入する.

Table1.1 Sample Table: accuracy for train/evaluation data.

訓練データの正答率	: 98%
テストデータの正答率	: 88%

1.3 Bib

参考文献は, [1] とすれば良い. 複数の参考文献を扱う場合は, [1, 2] のようにする. 使用していない参考文献は自動的に記載されないようになっているので, とりあえず `bib/liter.bib` に入れておいて構わない.

通し番号は本文で言及された順になるがこれも自動的に処理されるので気にしなくて良い.

1.4 Equation

数式の入力はたくさんある. 文章中であれば, $x = 2$ のように挿入できる. 数式環境を用意する場合は, 式 (1.1), 式 (1.2), 式 (1.3) のようにできる.

$$x = 2 \tag{1.1}$$

$$y = x^2 + 1 \tag{1.2}$$

$$= 5 \tag{1.3}$$

第 2 章

序論

2.1 研究背景

2.2 本研究の目的と方法

2.3 本論文の構成

本論文は本章を含め、7つの章と2つの付録からなる。

- 第1章では本論文の位置づけについて記した。
- 第2章では背景について記した。
- 第3章では提案手法について記した。
- 第4章では実験について記した。
- 第7章では提案手法に関して結論を考察し、今後の展望に関して述べた。
- 付録Aではその他の本研究に関する予備実験や補足事項について述べた。
- 付録Bではその他の実験を載せた。

第 3 章

背景

第 4 章

提案手法

第 5 章

実験結果

第 6 章

結論と展望

6.1 結論

本研究の貢献は次の 2 つである.

- your contribution 1
- your contribution 2

6.2 課題と展望

謝辞

本研究は、東京大学 大学院 情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻 your professor 教授のご指導のもとで行われました。

参考文献

- [1] F. Author and S. Author, “Some publication title,” in *Proceedings of the Xth Conference on XYZ*, F. Editor and S. Editor, Eds., October 2006, pp. 330–331.
- [2] F. Editor and S. Editor, Eds., October 2006.

付録 A

実験の補足

付録 B

その他の実験

